

南仏治安情報 (2012年10月)

■プロヴァンス地方

1. マルセイユ市北部の治安悪化について

マルセイユ市15区のバス発着所 Bougainville で、スクーターに乗った少年の危険運転を注意した事をきっかけに、バス運転手5人が若者約30人に殴る蹴る等の暴行を受ける事件が発生しました。同ターミナルでは7月にバスが燃やされており、また車内で大麻を吸う等治安が大変悪化しているため、防犯カメラの設置やパトロールの増強等の対策が強く求められています。

2. 白屋の飲食店での銃撃事件

10月11日、マルセイユ市4区の飲食店のテラスで、53歳の男性が近づいてきた男2人に襲われ頭部等に十数発銃弾を受け死亡しました。事件当時、現場は昼時で混み合っており、流れ弾を受けた客の一人が腕に軽傷を負いました。犯人の2人はスクーターに乗り逃走するのを目撃されています。被害者は30年以上前に強盗の犯罪歴があり、警察は組織的に暗殺されたとみて捜査しています。

3. 警察官の汚職

治安の悪化が危ぶまれるマルセイユ市北部で、10月2日、同地域防犯部隊所属の12人の警察官が窃盗・恐喝の疑いで取調べを受け7人が逮捕され、残りの5人と11日に新たに取調べを受けた3人が停職および司法監視下におかれしました。これらの警察官の所持品からは犯罪者から押収した麻薬や貴金属、現金等が見つかり、これを重く見たマニユエル・ヴァルス内相は同部隊の中堅組織 (30人で構成) を解散しました。

4. 突風による竜巻の発生

地中海沖で発生した雷雨が、10月14日エクサン・プロヴァンス市では時速66km、複合商業施設プラン・ド・カンパーニュでは時速90-100kmの暴風をもたらしました。同日午後16時15分頃プラン・ド・カンパーニュではこの突風により竜巻が発生し、看板等の飛散物により買い物客ら25人が軽傷を負いました。

■コートダジュール地方・コルシカ島

1. カンヌでイスラム過激主義者を逮捕

10月6日、仏警察当局はフランス国内7カ所で、イスラム過激主義者グループメンバーの一斉摘発を行い12名を逮捕しました。ストラスブール市では、パリ郊外で9月中旬にユダヤ系食料品店を爆破した容疑者でグループのリーダーとされる男が逮捕時に抵抗し射殺されました。また、カンヌ市ではこのリーダーの男と関わりがあったとして3人が逮捕されました。

2. 北アフリカへの盗難二輪車の密輸

フランス全土の二輪車盗難のうち60%が L'ile-de-FranceとPaca 地方での発生と報告されています。特にニース市、マルセイユ市で盗難に遭った車両は、アラブの春以降警察機能の低下しているチュニジア等に密輸されている事例が多数確認されています。この為自動車では盗難に遭った車両の内約半数が発見されているのに対し、二輪車での発見件数は約8%にとどまっています。

3. ニース市における麻薬捜査の実施

ここ数ヶ月ニース市では、複数の地区で警察による麻薬密売人の家宅捜査が実施されています。10月5日にはMoulin地区で 80人もの警察官が出動する大掛かりな捜査が行われ、容疑者2人が逮捕され10人が職務質問を受けました。

4. コルシカ島で相次ぐ暗殺事件

10月16日朝、過去にコルシカ県知事を暗殺したIvan Colonna終身刑囚の弁護士であった Antoine Sollacaro氏が、Ajaccioのガソリンスタンドで近づいて来たバイクの後部座席の人物に発砲され6発以上の銃弾を受け死亡しました。また同日オート・コルス県Balagneでコルシカ自治主義者の1人が殺害されました。今年初頭からのコルシカ島での暗殺被害者は15人に上ります。

■ミディ・ピレネー地方

1. 精神疾患による無差別傷害事件の発生

人通りの多いトゥールーズ市役所前 La Place du Capitoleで、10月9日午後、精神疾患を有する男が興奮してナイフ・カッター等の刃物を振り回し通行人に怪我を負わせた後、警察官に襲いかかろうとした事件が発生しました。警察官はやむを得ず男に向かって発砲し、男は右脚を怪我し病院に運ばれました。

2. 高校生への薬物汚染

当地方カストル市の高校の校内で、15歳の少年が顧客である15人の生徒に大麻樹脂を密売していた事が明らかになりました。警察は少年に薬物を供給していたとして27歳の男を逮捕しました。

3. 銀行員を装った詐欺事件

モンペリエ市で2010年9月以降、銀行員を装い高齢者10名から合計45000ユーロをだまし取っていた疑いで男が逮捕されました。男は銀行を訪れた客に対し路上で、紙幣に偽札が混ざっている可能性があると言って近寄り、客が自宅に保管していたり、または男が客に現金自動支払機で引き出させた紙幣を本物に取り替えると言って持ち去り、詐欺を働いていました。

4. 賃貸物件を巡る詐欺事件

賃貸物件の需要が急増する入学・始業シーズンに、物件を巡るトラブルが目立ちました。モンペリエ市では2人の学生が、同一の架空物件に前金として家賃600ユーロ、保証金として家賃2ヶ月分の計1800ユーロを支払わされる詐欺事件に遭いました。特に個人貸しの場合は契約時に不審な点がないか注意が必要です。